

国分寺市地域産業活性化プラン 概要版



住人十色の魅力があるまち・国分寺

国分寺市地域産業活性化プランは、平成29年度から平成38年度までの10年間を計画期間とし、商業を中心として農業や工業、観光等を含めた地域産業が連携しながら、市民・事業者の地元への意識を育み、国分寺市ならではの魅力を創出し、地域経済を活性化することを目的としています。

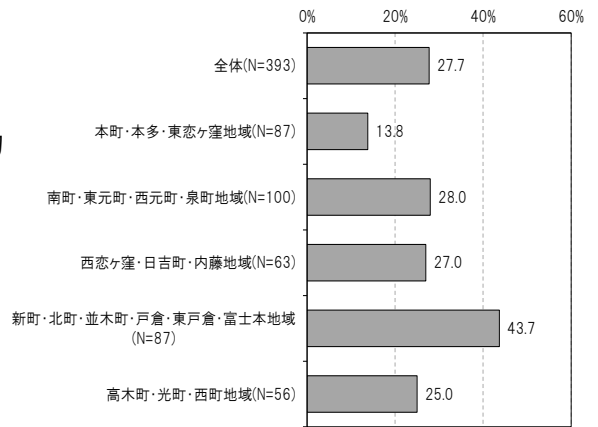
平成29年3月
国分寺市

国分寺市の現状

買い物を不便に感じる人 **27.7%**

「市民向けアンケート」※では、全体的には日々の買い物に不便さを感じている人は27.7%でした。ただし、地域別にみると、新町・北町・並木町・戸倉・東戸倉・富士本地域では4割を上回っています。一方、国分寺駅北側に位置する本町・本多・東恋ヶ窪地域では1割強にとどまっております。地域差が見られます。

※正式名称は「国分寺市における買い物や地域経済活性化に関する市民アンケート」といい、市民の日常的な消費行動やニーズを把握することを目的として、20歳以上の国分寺市民1,000人を対象として実施しました。回収率は39.6%(回収数396人)でした。

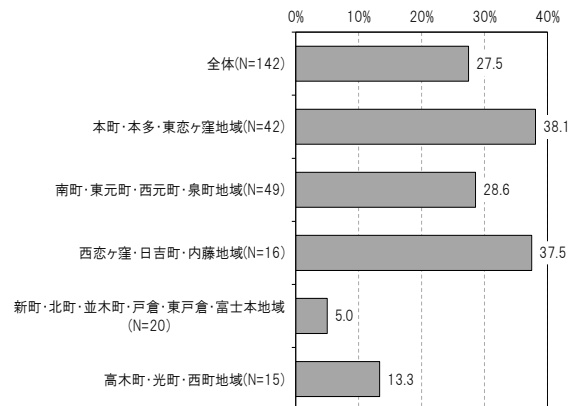


出典：「市民向けアンケート」(平成28年実施)

商店街によく買い物に行く人 **27.5%**

「市民向けアンケート」によると、近所の商店街によく買い物に行く人は27.5%でした。地域別にみると、本町・本多・東恋ヶ窪地域と西恋ヶ窪・日吉町・内藤地域にて特に利用が多くなっています。

商店街に足を運ぶ理由では、食料品や日用品の購入が多くなっています。ただし、市民の日常的な買い物の状況を考慮すると、商店街に立地するスーパーやチェーン店にて購入していると推察されます。

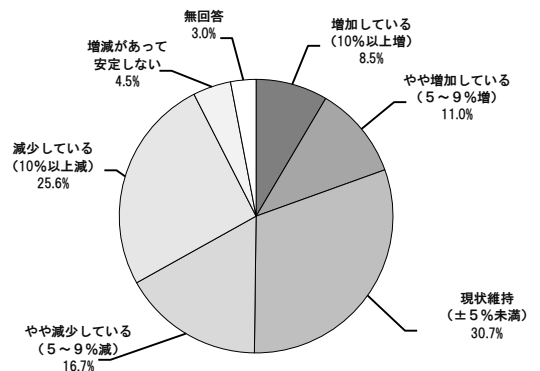


出典：「市民向けアンケート」(平成28年実施)

売上が増加している事業者 **19.5%**

「事業者向けアンケート」※によると、最近3年間で売上が伸びている市内事業者は19.5%となっており、減少している事業所の方が多くなっています。業種別にみると、小売業・飲食サービス業の事業所において他業種よりも売上が減少している事業所が多いことが特徴です。

※正式名称は「国分寺市における地域活性化に関する事業者アンケート」といい、国分寺市商工会に加盟する1,147の事業所(商業1,056件、製造業91件)を対象として、市内事業者の景況や経営状況を把握することを目的として実施しました。回収率は44.2%(商業464件、製造業44件)した。



出典：「市民向けアンケート」(平成28年実施)

小売吸引力指数 **0.507**

国分寺市の商店数は年々減少傾向にあり、年間販売額もそれにあわせて減少しています。そのなかで、小売業が市外から人を呼び寄せる指標となる小売吸引力指数※は0.507となっており、市外から人を集める商圈と言うよりも、市外へと消費が流出していることが伺えます。

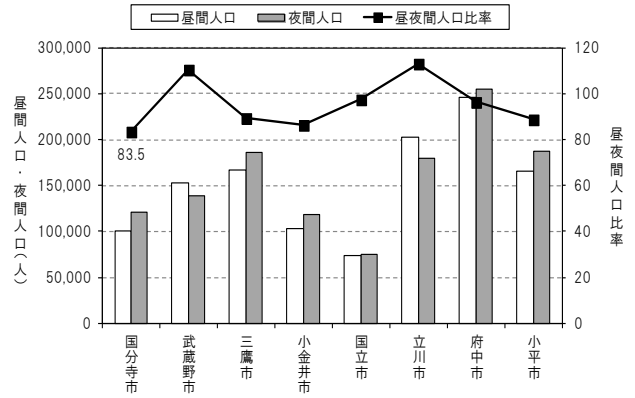
ただし、多摩地域全体の小売吸引力指数は0.58となっており、1.0近くとなっているのは武蔵野市と立川市のみです。そのほか、0.70を超えている自治体は昭島市、町田市、武蔵村山市、多摩市だけです。これらの自治体の数値が高い理由は、JR中央線や小田急線、京王線の拠点駅であることや、ショッピングモール等の大型小売店の立地が挙げられます。

※国や東京都の一人当たりの年間小売販売額に対する、自治体や区域の一人当たり年間小売販売額の比率です。自治体や区域の商業が誘客する力を示しており、指数が1.0以上の場合は買い物客を外部から呼び寄せており、1.0未満の場合は域外に流出していると読み取ることができます。

昼夜間人口比率 83.5

昼夜間人口比率※は83.5となっており、近隣の小金井市、国立市、立川市、小平市、府中市のほか、JR中央線沿線の武蔵野市、三鷹市のなかでは最も低くなっています。ただし、市内の地区別にみると、国分寺駅周辺の南町と本町の昼夜間人口比率はそれぞれ251.7、191.2となっており、地域差が見られます。

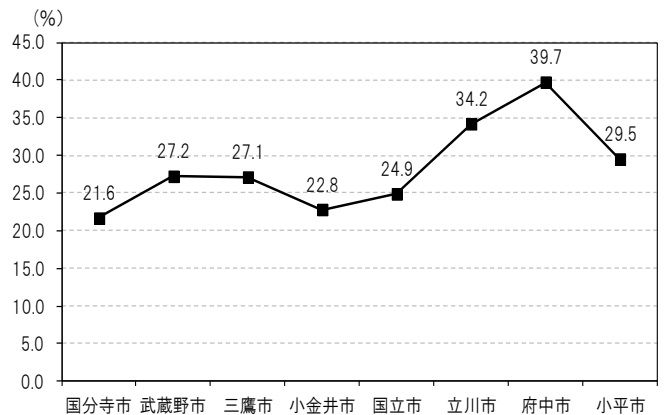
※自治体人口(夜間人口)から市外に通勤する人数を除き、市外から通勤する人数を加えた人口を昼間人口という。昼夜間人口比率は、夜間人口に対する昼間人口の比率。



出典：東京都「東京都の昼夜人口」（平成22年）

市内で働く人 21.6%

国分寺市民の15歳以上の就業者のうち、市内で働く人の割合は21.6%です。武蔵野市と三鷹市がやや高くなっていますが、国立市までのJR中央線沿線の自治体は2割半ばとなっています。立川市になると3割を上回り、府中市は4割弱となっています。

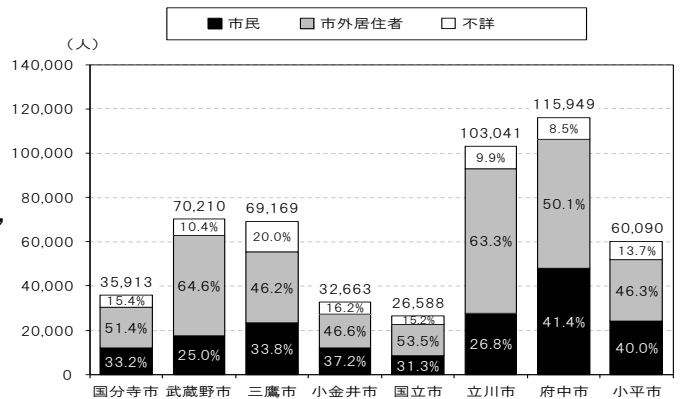


出典：「国勢調査」（平成22年）

市内で働く人 35,913人

就業者数(15歳以上)をみると国分寺市は35,913人です。小金井市、国立市の2~3万人程度と同様に周辺自治体と比べて少ないことがわかります。一方、立川市と府中市が特に多く10万人を上回っており、武蔵野市、三鷹市、小平市も6~7万人の就業者がいます。

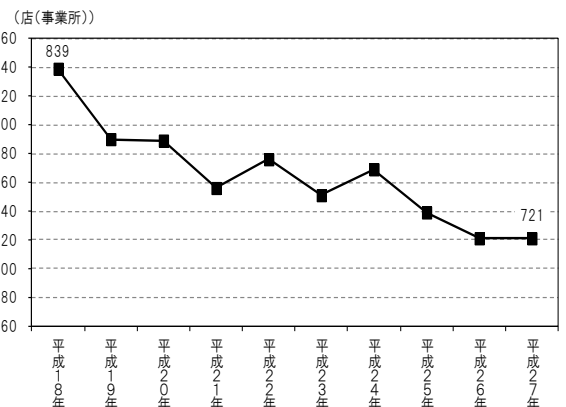
いずれの自治体も市外からの就業者は5~6割となっており、国分寺市には市外から18,449人が働きに来ています。



出典：「国勢調査」（平成22年）

商店会加盟店(事業所) 721店(事業所)

市内の商店会は、平成18年には21団体ありましたが、10年間で4団体が解散した結果、平成27年では17団体まで減少しています。会員数も若干増加した年もありましたが、10年間で約120店(事業所)減少し、現在は721店(事業所)が会員になっています。



出典：国分寺市資料

長期目標

地元愛を持って仕事をする人たちがまちを盛り上げ、
まちに住む人・訪れる人が地元を楽しむことで、
売り手よし・買い手よし・世間よしの関係で地元経済を活気づける

国分寺市の地域産業の活性化のためには、消費刺激策も有効ですが、長期的な視野に立って市民と事業者が国分寺市に愛着を持ち、国分寺市に対する**地元愛**を感じながら生活や事業を営むなかで地元の魅力を創出し、高めていく必要があります。

交通結節点という立地特性や市内農畜産物、自然環境、歴史資源等、地元の魅力につながるポテンシャルが多数あることを活かし、地元を愛する商業、農業、工業そして観光に関わる事業者、さらには市民が魅力を協創し、楽しむことを通じて、**国分寺市ならではの魅力**を創出します。そして、市内の消費・雇用が増え、市内事業者の売上も増え、めぐりめぐって市民生活が豊かになるような経済循環を生み出すことを目指します。

具体的な目標

- ① 自分の仕事を通じて地元を盛り上げ、利益を高める事業者を増やす
- ② 買い物や飲食を通じて地元を楽しもうとする市民を増やす
- ③ 国分寺が好きで訪れる市外在住者を増やす

指標と目標

指標	現状地	目標
小売吸引力指数	0.507	維持
小売業の年間商品販売額	85,744百万円	増加
小売業の売り場面積	73,602㎡	増加
商店会会員数	721店（事業所）	増加

※小売吸引力指数及び小売業の年間商品販売額・売り場面積の現状値は「商業統計」（平成26年度）、商店会会員数は平成27年度の実績値です。

※小売吸引力指数は自治体や区域の商業が誘客する力を示します。小売吸引力が1.0以上の場合は外部から買い物客を呼び寄せており、1.0未満の場合は域外に流出していると読み取ります。

計画期間の考え方

計画期間は10年間ですが、社会・経済状況の変化やまちづくりの進捗によって地域産業を取り巻く状況が変化した結果、計画や事業が現実に適合しなくなることも考えられます。そのため、長期的視点での事業検証はもとより、中期的に検証し、十分な成果が見られない場合には事業を見直し、修正を図ることが重要です。

そこで、本プランでは平成29～32年度を第Ⅰ期、平成33～36年度を第Ⅱ期、平成37年以降の2年間を調整期間とし、期毎に進捗・成果を検証します。

6つの方向性

方向性 1 「国分寺らしさ」の協創

事業者と、消費者である市民がともに、地元愛に根差した「国分寺らしさ」を協創することを目指します。さらに本プランの取組を一体的にプロモーションすることで、市外からの来街者を増やします。

事業者と市民が共有できる「国分寺らしさ」を見出すため、既存の事業者や事業のなかから「国分寺らしさ」を見出し、市内外に広く発信する必要があります。

方向性 2 地元を楽しむ買い物の促進

「国分寺らしさ」を感じることができる買い物環境を形成するとともに、地元愛を持ち、地域で買い物をしようとするバイ・ローカルの意識を醸成し、「国分寺らしさ」を楽しむ市民(消費者)を増やしていくことを目指します。

地元を楽しむ買い物をする市民を増やすためには、まず市民のなかで地元愛を醸成し、バイ・ローカルの意識を持つ機会を設ける必要があります。

方向性 3 まちづくりと連動した買い物環境の向上

地元での様々な事業をつなげるとともに、まちづくりと連動した買い物環境の向上や既存のストックを活用した商業展開を図り、地元を楽しむ環境を市内各所に面的に広めることを目指します。

道路環境の現状を踏まえ、国分寺駅前をはじめ、市内各所の商店街で、ぶらぶら歩きを楽しめる環境をつくる必要があります。

方向性 4 資源を活かした回遊性・滞在性の向上

歴史・自然・農といった既存の資源を、ストーリーをもって結び付け、ICT等を活用して回遊を促します。さらに商業・サービスとも連携することで、市内での滞在性を高めることを目指します。

史跡や自然が集積する都立武蔵国分寺公園周辺の回遊性・滞在性を高めるため、商業と資源の連携を高める必要があります。

方向性 5 起業・創業がしやすい環境の形成

相談対応や資金面での支援はもとより、既存の商・工・農業及び産業資源や、空き店舗・空き家等の既存ストックを活かし、市内での起業・創業をしやすい環境をつくることを目指します。

企業・創業がより促進され、市内定着を進めるためにも、産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画に位置付けた事業をより一層充実させる必要があります。

方向性 6 地域産業の持続性を高める体制構築

「国分寺らしさ」を感じる事業者や起業・創業家が定着し、将来的に操業を続けていけるように支援する制度を検討するとともに、商工会・JA・商店会、さらには大学や金融機関等と連携した組織づくりを進めます。

商店会の法人化は様々なメリットがあることから、行政としての支援の在り方を検討することで、商店会の法人化を促す必要があります。

方向性と事業

方向性 1 「国分寺らしさ」の協創

第Ⅱ期の重点事業 「国分寺お店大賞」プロジェクト

「国分寺お店大賞」は、国分寺らしさや魅力ある商品・サービスを提供する個店を部門別にて審査し表彰する事業です。リーフレットや市報、ホームページ等により発信することで、商店街に足を運びきっかけをつくり、にぎわいを創出します。また、市内のみならず市外にも積極的に情報を発信することで更なる認知度向上を図ります。

■今後の事業展開

- 国分寺の魅力・資源に関する情報の収集
- 地域産業の魅力のPRの促進
- 飲食店等における地産地消の推進

■継続実施事業

- 国分寺ブランド品
- 一店逸品事業
- 名物名産品事業



国分寺ブランドロゴ



「逸品カタログ」(一店逸品事業)

方向性 2 地元を楽しむ買い物の促進

第Ⅱ期の重点事業 地元愛による買い物促進

市内で実施されているイベントを通じ、地元を楽しみ地元で買い物をする市民を増加させることで、バイ・ローカルの意識を育て上げます。特に商工会や、JA、観光協会と連携を図り、「ぶんじふれあい市」やマルシェ等を、国分寺駅前広場を有効活用し定期的に開催することで、市民が地元に着を感じ将来に渡って地元で買い物をする意識の醸成を図ります。

■今後の事業展開

- 国分寺市ならではの商品・産品に触れる機会の充実
- 小・中学生の商業体験機会の提供
- 市内在勤者・在学者及び鉄道利用者に向けた市内商店のPR
- 出張販売や宅配サービスによる買い物支援の検討

■継続実施事業

- 商店街チャレンジ戦略支援事業
- 地域連携型商店街事業
- 「みにこみ国分寺」の作成
- 商工会ホームページの充実
- ぶんじふれあい市の充実

方向性 3 まちづくりと連動した買い物環境の向上

第Ⅱ期の重点事業 LEDの更新支援による環境整備

市内各駅周辺や商店街を中心とした歩行環境を整備することで、ぶらぶら歩きを楽しめるまちを目指します。具体的には装飾街路灯のLED化がほぼ完了したため、今後発生してくるLEDの更新に対する支援に取り組むとともに、まちづくりと連動した取組についても検討します。

■今後の事業展開

- ロードサイドの地産地消拠点の検討
- 既存ストックを活用した買い物環境の整備に向けた検討
- 公共的空間を活用した事業を行う団体への支援制度の検討
- 買物困難者等に対する買い物環境の充実

■継続実施事業

- 装飾街路灯の維持管理に対する支援



「国分寺物産展」(平成27年度写真コンクール JA東京むさし賞)

方向性 4 資源を活かした回遊性・滞在性の向上

第Ⅱ期の重点事業 ICTを活用した社会実験の実施

近年、キャッシュレス決済の多様化が急速に進み、購買体系が大きく変化している中、地域通貨を利用した取組が各市で実施され、地域の活性化が図られています。当市においても、スマートフォン・アプリを活かし、回遊性・滞在性の向上を図る当市ならではのポイント付与事業を、関係機関や民間事業者と連携し企画・検討を行います。

■今後の事業展開

- ICTを活用した回遊促進
- 回遊性・滞在性を促すポイントサービスの検討
- 広域連携による来街促進、及び面的な観光振興

■継続実施事業

- 広域連携による来街の促進
- 商店街マップの作成

国分寺・府中観光アプリ
「ぶらり国・府」トップ画面



方向性 5 起業・創業がしやすい環境の形成

第Ⅱ期の重点事業 個別相談会や創業セミナー等の充実

これまで、産業競争力強化法に基づく創業支援等事業計画の下、定期的な個別相談会やセミナー、創業塾を実施してきました。事業の周知活動に力を入れたことにより、多数の創業希望者が参加し、市内での創業につながりました。今後も市内での創業者が増えるような新たなセミナーなどを関係機関と連携して実施するとともに、商工会や商店会への加入促進にもつながるような効果的な手法も検討していきます。

■今後の事業展開

- 市内産業・産業資源の実態調査の実施
- 雇用機会となる事業所・支店の誘致促進に向けた検討
- 空き店舗・空き家を活用した企業・創業促進のための支援制度の検討
- 創業後のフォローアップ体制の構築

■継続実施事業

- 創業支援事業
- 小口事業資金融資あっせん制度

方向性 6 地域産業の持続性を高める体制構築

第Ⅱ期の重点事業 事業承継に向けた支援の実施

経営者の高齢化等に伴う後継者問題を円滑に解消し、市内の優良な技術の継続性や事業の持続性を高め、将来にわたって事業承継が繰り返される取組を進めます。具体的には、関係機関と連携した個別相談会やセミナーを実施することで、事業者が抱えている問題等を把握し、更なる支援策・支援体制を検討します。

■今後の事業展開

- 商店会の法人化を促す支援制度の検討
- リサーチやビジネス体験等、大学との連携促進
- 観光協会の自主的な運営を促す一層の支援
- 労働生産性向上を図る設備投資への支援
- 事業継続計画（BCP）等策定への支援

■継続実施事業

- 中小企業の育成・支援の充実



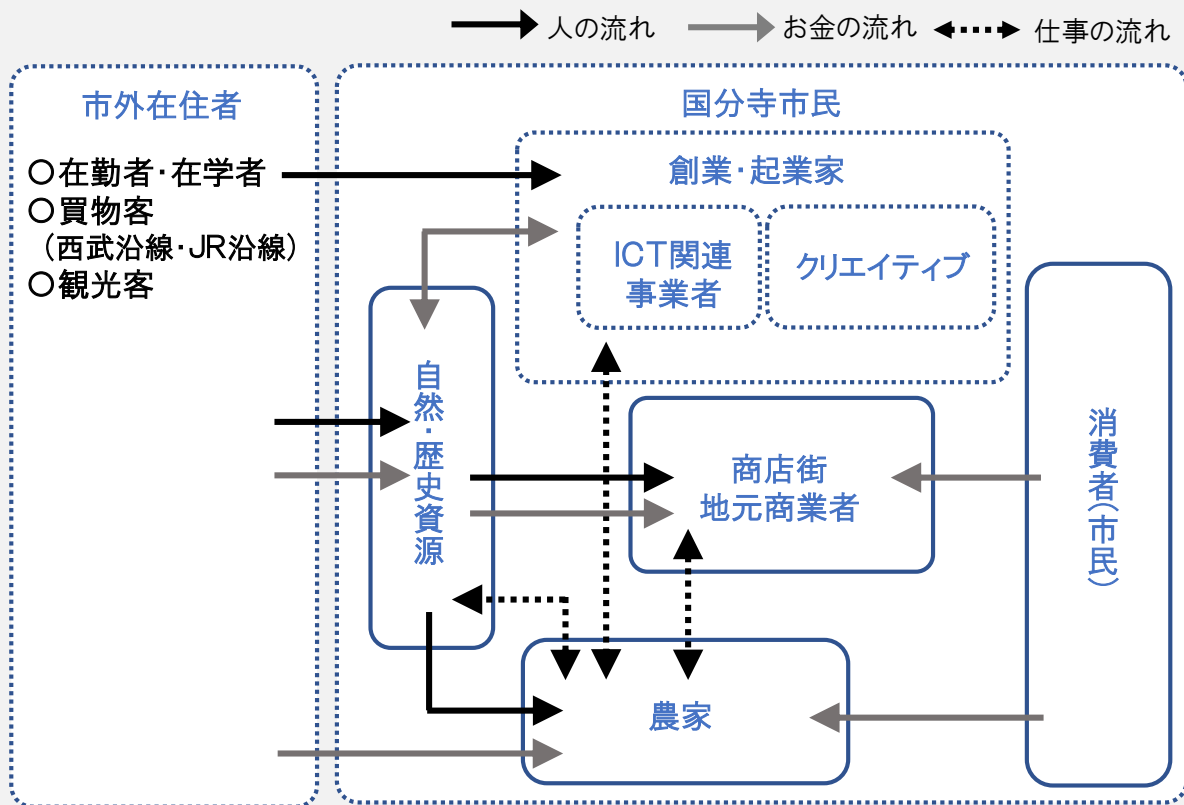
「観覧」（平成27年度写真コンクール 商工会長賞）

推進体制

本プランの推進に当たっては、商業・農業・工業だけでなく、シティプロモーションやまちづくりとも関連することから、庁内関係部局と連携を図る必要があります。さらに、地域産業の現場により近い存在である商工会、商店会、JA、観光協会、金融機関、さらに中小企業診断士等の識見者等で構成される「(仮称)国分寺市地域産業活性化プラン推進委員会」(以下、推進委員会)を立ち上げ、プラン推進の支援と評価を行う組織とします。

さらに、6つの方向性に位置付けられた事業を具体的に推進するに当たっては、推進委員会の委員が座長となり、関係者を集めた分科会を組織し、事業を企画及び実施するものとします。

地元経済循環のモデルと推進体制



発行 国分寺市

編集 市民生活部 経済課

〒185-8501 東京都国分寺市戸倉一丁目6番地1 電話番号：042-325-0111 (代表)